発行 山形県立小国高等学校

小国高校ジャーナル

Vol.100
2010.9

第9回　森の聞き書き甲子園

この度、第9回 森の“聞き書き甲子園”に、本校1年 齋藤麻未が全国で100名という厳しい参加枠の中、見事採用されました。今後、全国から選ばれた参加者達は、8月に行われる東京での事前研修に参加し、9月～12月にかけて「聞き取り取材」・「レポート作成」の後、来年3月のフォーラムにて成果を発表することになります。

「森の“聞き書き甲子園”」とは

林野庁・文部科学省・社団法人国土緑化推進機構・NPO法人共存の森ネットワークの4者で構成する実行委員会が主催するプロジェクトで、毎年、日本全国の高校生100名が参加します。高校生は、森と関わるさまざまな職種の「森の名手・名人」を訪ね、一対一で「聞き書き」をします。また、聞き書きの先輩方は各地区で活動を行っている「共存の森」に所属します。東北地区は山形県飯豊町中津川地区の「源流の森」で、「人が生きるための森づくり」をテーマに活動を行っています。NPO法人「美しいやまがた森林活動支援センター」の方々にも協力を頂いています。

齋藤麻未（1年）

性教育講話

7月21日（水）酒田市立八幡病院看護師の後藤敬子氏をお招きし、性に関する正しい知識の習得と適切な意志決定や行動の選択ができる力を育むことを目的として「自立した大人になるために　～いのちの現場から～」のテーマでお話を頂きました。

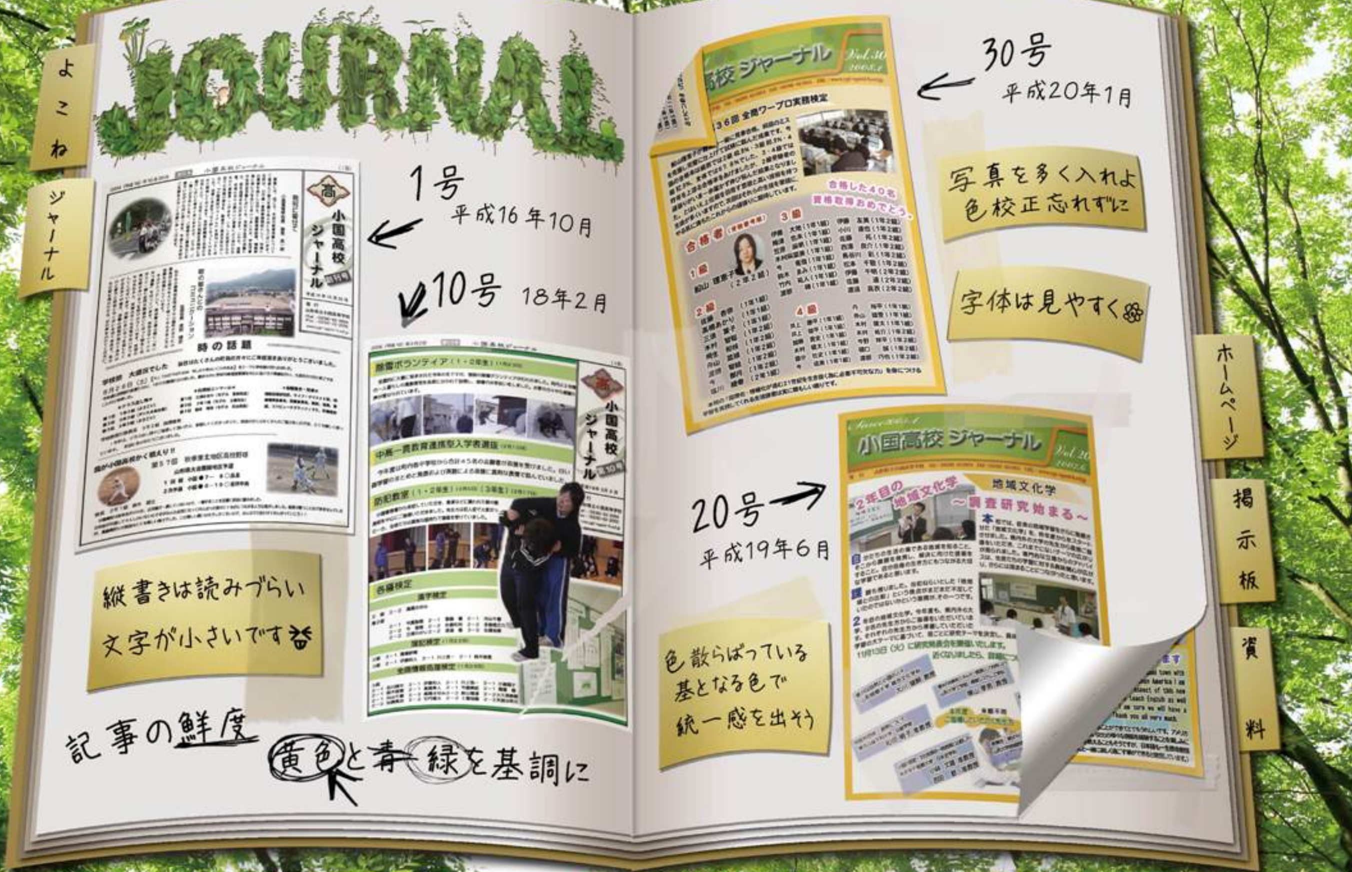
TOEIC Bridge

国際教育を中心とした本校では英語能力を測定する手段の一つとしてTOEIC Bridgeを毎年全員が受験しています。7月には3年生が受験し、1・2年生は12月に予定しています。

TOEIC Bridge（トーイック・ブリッジ）とは

学生や社会人の間で英語能力評価試験として信頼の厚いTOEICのジュニア版と呼ばれるテストです。テストの結果が合格不合格ではなく、スコア（20～180）で評価されます。TOEIC運営委員会によると、TOEIC Bridgeで使用されている英単語の多くが、中学校・高校の教科書、センター試験出題の英単語と重複しており、「日本の英語教育課程にも適応しうるテスト」といわれています。

おかげさまで小国高校ジャーナルは 100号 を迎えることができました。



これからも皆さんのご意見を大切に、邁進して参ります。引き続きのご愛読をお願いします。